

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立日高高等学校	上田 優人
学校所在地		
〒 644 - 0003 tel 0738 (22) 3151      fax 0738 (23) 2922      e-mail		
担当者名		役職名・担当教科
鈴木良朋		教諭・理科
〔学校の概要〕		
<p>1 学年普通科 4 学級、総合科学科 2 学級の、全校生徒 7 1 1 名の全日制高等学校。また、附属中学校を併設し中高一貫教育に取り組んでいる。今年度より文科省からSGH指定校に選ばれ、地域・防災等課題を設定し、自発的に地元と世界について学ぼうとする機会を授業の一環として設けている。“翔べ 日高から世界へ”をキャッチフレーズに、グローバル社会に貢献するリーダーの育成を目指している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 2 年生    8 1 名	4 名    職員 4 名	世界遺産熊野本宮館・熊野参詣道 三軒茶屋跡～大斎原
実践研究テーマ		
日高高等学校 2 年普通科文科系校外研修（世界遺産熊野古道研修）		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	世界遺産熊野古道研修	
〔キーワード〕		
世界遺産学習 郷土理解 地域学習		
〔単元目標〕		
<p>私たちのふるさとである、和歌山の世界遺産（紀伊山地の霊場と参詣道）について学習し、郷土の文化・観光・産業についての理解を深めること。</p> <p>ふるさとを愛し、世界的な視野に立って思考し、行動する姿勢を身につけること。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体    4. 5 時間    （「 熊野参詣道について 」    4. 5 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産協議会（和歌山県世界遺産センター） …世界遺産入門講座 次世代育成事業（現地学習）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 「熊野参詣道」について資料を読み、説明を聞いて、理解を深める。	熊野三山の歴史や自分たちのふるさとに今も残る「参詣道」について知り、新たな視点や郷土観を持たせる。	(感じる力) 観察
2	2. 郷土にある世界遺産の素晴らしさを知り、後世まで保全していこうとする姿勢を育てるため、世界遺産センターの講師から、専門的な世界遺産概論を聞く。 3. 熊野参詣道を歩きながら現地で専門家の説明を受けることで、世界遺産に関わる多くの人々の思いに触れ、そこに根付く文化や自然を体感する。	・和歌山県世界遺産センターの職員による講義を受ける。 ・世界遺産について学習した後、熊野参詣道を歩く。	(感じる力・創造する力) 観察
3	4. 世界遺産概論を聞き、熊野参詣道を歩いた感想をワークシートに書く。	世界遺産について、専門的な講義を受けたことや実際に熊野参詣道を歩いたことで、気付いたことや感じたことから、深めた考えをまとめさせる。	(考える力・発信する力) ワークシート
〔单元学習の成果と課題〕			
<p><b>成果</b> 世界遺産熊野古道研修を通して、生徒たちは、自らの郷土である和歌山県について、文化・観光・産業など広い分野で理解を深めることができた。何より、自身の郷土に世界遺産があることを誇りに思うことができていた。このことは、自分たちを知ることもつながり、将来世界へ自らを発信させていく際に大きな影響を与えることにつながると期待している。また、熊野参詣道に関連して、歴史や文化についても学ぶことができ、昔の人々の土木や建築、宗教観などに興味を広げることも役立った。</p> <p><b>課題</b> 今回の研修では、知識や理解に重点を置いていたため、成果としては上記のとおりである。今現在、地域密着で取り組んでいる総合的な学習の内容は御坊市や近隣限定となっているが、この体験を活かし、和歌山県へと活動の幅を広げてどの様に世界遺産に携っていくか自発的に考えさせる場を作る必要がある。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>(1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、資料を読んだり講義を受けたりすることを通して、興味関心を持つようになる。</p> <p>(2) 熊野参詣道を歩くことで(1)での興味関心をさらに高め、郷土の文化・観光・産業について考える素地を養うことができる。</p> <p>(3) 世界遺産概論を受けたことをもとに、外国の世界遺産に関心を持つようになる。</p> <p>(4) 本研修を通じて自ら見つけた郷土和歌山の魅力は、SGH事業の一環として行っている国際交流の際にコミュニケーションの基本となり、世界に向けて自分を発信する材料にすることができる。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>本研修では、世界遺産学習を通じて、自らの地域について関心を持ち理解を深めること、そしてふるさとを愛し、世界的な視野に立って思考し、行動する姿勢を身につけることを目標としている。</p> <p>どの生徒も、将来自立し、就職先や日常生活などで、国内外を問わず様々な人と関わりをもつことになるだろう。お互いに自分のことを相手に伝え、相手のことを理解する。そのようなコミュニケーションの場では、自分が自分のことや生まれ育った地域のことを理解しておくことが基本となる。本研修が、そのための一助となることを期待し、今後も続けていきたいと考えている。</p>			

## 様式 2

平成28年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

### 1. 世界遺産入門講座を聴いて

○世界遺産は現在1052件あり、その中で危機にさらされているのが55件あるのを知って驚いた。遺産を作るのは人間だが、破壊するのも人間。やはり、世界遺産を守っていくのは私たち人間しかいないと改めて思った。

○世界遺産には、文化遺産、自然遺産、複合遺産などの区分がされていること知った。紀伊山地の霊場と参詣道は複合遺産だと思っていたが、実は文化遺産ということを知って驚いた。世界遺産には危機遺産リストに載っているものや、登録抹消されてしまったものもあるのを知った。過去の遺産を未来に残していくために私たちにできることは何かを考え、実行することが大切だと思った。

○雨が降って地面が崩れたところや、土が流れてしまったところを町の人たちがボランティアで補修しているのを知り、熊野古道はみんなの力で守られていると思った。それを後世に残すために私たちがバトンを繋ぐべきだと思った。

○遺産が抹消される話を聞いて、もったいない、保全していくことが大切だと思った。12月に世界遺産検定を受けるので、ちょうどいい機会となり勉強になった。



### 2. 熊野古道を散策して

○実際に歩いてみて、空気がすごく新鮮で神秘的な風景に自然の素晴らしさを感じた。歩いている最中、この道をどれだけの人が歩いてきたのかと考えていた。世界遺産マスターさんからいろんなお話を聞いて、熊野古道の歴史を学ぶことができた。

○石を積んで道や階段が作られているのを見て、昔の人々は今のよう技術が進歩していないにもかかわらず、すべて手作業でしていたと考えると大変な労力だと思った。

○熊野古道は舗装された道とは違って自然のままだった。古い道というだけではなく歴史があり、昔から参詣道として使われてきたからこそ、文化遺産に選ばれたのだと思った。

○普段感じるできない壮大な自然に触れることができた。道中に、熊野本宮大社や高野、紀三井寺までの距離が書かれた石、熊野川、展望台からの絶景などが見られてよかった。また訪れたいし、多くの人にも歩いてもらいたい気持ちになってほしいと思った。

